

初恋ブレイカーモード先生

アイアンロックス

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

草太さんが小学校の先生になつたらどうなるかを考えてみました

初恋ブレイカーリー宗像先生

目

次

# 初恋ブレイカ－宗像先生

自分の部屋のベッドに横たわり、天井を見つめる。やつぱり結構ショックを受けてるみたいだ、考えてみれば当然なのに。

担任の宗像先生に彼女がいた。

高い身長にイケメンと言つていい顔、どこか浮世離れしたミステリアスな雰囲気、そして誰にでも分け隔てなく接してくれてなんでもできる。そんな宗像先生が我が小学校に赴任して来て以来、女子児童はおろか同僚の女性教諭更には保護者まで多くが心を奪われてしまつた、わたしもその一人：今は違うけど。

何かの間違いで芸能界に入つてたら歌つて踊つてたり朝ドラにも出てお茶の間を賑やかしていたかも知れないなんて話も別のクラスの友達はしていたが、毎日担任の先生として接してると少し間が抜けたところもあつて天然氣味だと思う。

それでも日曜日の今日、宗像先生を見かけた時は胸が高鳴つたいつもと違う雰囲気に更に胸がドキドキした。話しかけようと近づく前に女人の声を聞いた。

「草太さん」

振り返った宗像先生の視線の先には手を振るポニーテールの女人がいた、先生も右手を上げてそれに応じて2人が近づいていく。「すずめさん

すずめと呼ばれたその女人の人はそのまま先生に駆け寄ると胸元に抱き着いた、固まるわたし。

「すずめさん、人が見てる」

「いいじやないですか、草太さんのケチ」

そんな仲睦まじいやり取りをしてる2人なんて見たくないのに目が離せない、宗像先生はその女人を自分から離すと学校の皆には見せたことないような笑顔でその女人に言う。

「行こうか、すずめさん」

宗像先生は自分からその女人人と手をつなぐと2人は街の中へ消

えて行つた。

彼女いるよね、というよりあれだけのイケメンを狙わない女はいないと思う。宗像先生はあのすずめという女の人に引っ攫われてしまつたのだ。

調べたらすずめという名字はあるらしいが、あの女人が宗像先生を「草太さん」と名前で呼んでた以上すずめがあの人の名前なんだろう。どんな字を書くかは分からぬけどすずめが変な名前だと言うんならわたしの一族（母方）なんて葉っぱだらけだ。お父さんの名前も少し変な気がする。そんなことを考えていると部屋のドアが開いて妹が入つて來た。

「お姉ちゃんご飯やよ」

まだ3歳の妹の今のマイブームはお母さんの出身地方の方言だ、何でも語尾に「やよ」付けなくともいいのに。

食卓に座ると夕飯の準備が整つていた。

「五葉、何かあつた？」

お母さんに問われたけど誤魔化す、好きな人に彼女らしき人がいましたなんて言えない。

「お父さん明日には出張から帰つて来るから」

そういえばお父さんとお母さんはどうやつて出会つたのだろう。生まれも学校も職場も違うし、お母さんの方が3歳年上だ。通勤電車で会つたと言つてたけど、それはまた詳しく聞いてみよう。

わたし立花五葉は夕飯を食べることにした。